

会議等結果報告書			
会議区分	会 議 ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	341
		決裁期日	平成23年1月14日
名 称	上富良野町協働のまちづくり推進委員会（第11回）		
日 時	平成23年1月11日（火） 午後6時30分～午後8時20分		
場 所	保健福祉総合センター2階研修室B		
出席者	委員10人 町民生活課事務局3人 合計13名		

内 容

**[ 進行：町民生活課長 ]**

町民生活課長から、委員の欠席理由と欠席連絡のあった委員について報告。

**あいさつ**

三島会長： 今回は、すでに配っている概要版を決定し、広報1月25日号で発行することになっているのでよろしくお願ひしたい。

町民生活課長： 要綱に基づき、ここから先は会長が進行する。

**議題**

**3 その他**

町民生活課長： 最初にその他を説明したい。

吉岡主幹： その他について説明。

1月25日 住民会長との町政懇談会で住民会長に配付。広報に概要版を添付して配布。

1月26日 総務産建常任委員会で議員に配付。その後、厚生文教常任委員会の議員に配付。

1月31日 定例課長会議で各課長に配付。

1月中 職員用行動指針策定予定。

**1 協働のまちづくり基本指針概要版について**

内容の協議

吉岡主幹： 全体の読みあわせを行う。

三島会長： 何か変更点はないだろうか。

島瀬委員： 最初に「上富良野町協働のまちづくり推進委員会委員一同」とあるが、委員一同は  
いないのではないかと。また、2ページ目のお母さんの発言に「上富良野町には十勝岳の噴火  
災害があるから」と書いてあるが、災害が予想されるなどの表現のほうがいいのではないかと。

久我委員： 過去にあったからということでもいいと思う。

松下副会長： その上に書いてある阪神淡路大震災も過去にあったからこういうことを書いてあ  
るので、過去にあったのでということを書いたほうがいいと思う。

吉岡主幹： では、「噴火災害があったので」としたいと思う。

町民生活課長： 強調する部分を青色にしても見づらいので違う色にしたほうがいいと思う。

吉岡主幹： いくつか試して見やすいものにしたいと思う。

持安委員： 1月31日に定例課長会議があるようだが、そこでこれからのことについて質問されるかもしれない。そのようなことにどう答えるつもりだろうか。

町民生活課長： もう1年皆さんの任期があり、職員用の行動指針も作っているのだから、それらも見ていただいた上で職員はどのようにするということを決める。また、概要版を見ていただきさまざまな意見をもらった上で、実践をしていきたいと思う。

持安委員： 今なぜこのような質問をしたかというところ、概要版が具体性にかけていると思っている。「行政は何をするの？」の部分で言えば「参加しやすくなるような方法や制度を考える」と書いてあるが、それがなんだかよくわからない。それをわかるようにするために、最初に戻ってくる。「協働のまちづくりってなに？」の部分に出ているのが街角に立って子どもを見守ったり、花を植えたり公園管理が出ているので、その3つに絞ってすべての役割を説明していかなければならないのではないかと。協働のまちづくりをいろいろとするとこんなことになるということがわかれば、説得力が出てくると思っている。1ページのお母さんの発言に「道路沿いに花を植えてまちをきれいにしたり、そういうボランティア活動のことをいうみたいね。」とあるが、協働はボランティア活動ではなく、同じ目的を達成するために協力し合って働くことだと思っている。ボランティア活動を削除して書くとすると「道路沿いに花を植えてまちをきれいにしたり、同じ目的のために協力して働くこと。例えば 住民会の 公園の管理もそうだよ。」というふうにする。ようするに何とか住民会や何とか公園を作る。そうすると次のお父さんの言葉も「 公園の管理は、町から草刈機〜」となると思う。そして最後の部分も「そのとおりだね。いつもきれいな使い勝手のよい公園にするために町民同士が協力したり、町民と行政が協力して住みやすい町にしていくことが、協働のまちづくりなんだよ。」とまとめたほうがいいと思う。なぜ、ここで「地域のいろいろな課題を解決して」という部分を消したかというところ、課題の抽出というか掘り起こしについては何も触れておらず、よくするということが言っていないので、これは後の段階においたほうがいいのではないかと思ひ抜かした。「協働まちづくりってなに？」の後には、漠然と何をしたらいいのかがわかるようになっている。さらに第2弾を作り、公園を管理するため、町は町民の意見を反映する仕組みを作り、その仕組みを説明することで皆さんわかりやすくなっていくと思う。そのためにも何かに絞る必要があるのではないかと思っている。もうひとつ、2ページ目の「自助、共助、公助」があるが、最近「互助」ということも言われている。自助は自分でできることは自分ですることだが、自分でできない人がちょっとずつ増えていくので、隣近所などの地域の力でお互い様と支えあうのが互助である。そしてボランティアやNPOなどの団体の力を借りるのが共助で、行政は公助とするとこれから発展していくのであればいいのではないかと思っている。もちろん、これから出していくということでもいいと思っているが、最初から出すこともひとつの手ではあると思っている。

吉岡主幹： 広報でも25日号の特集ということで、4月以降も毎月2ページずつ誌面を予定している。そこで、基本指針の具体的な説明をすることや、持安委員のおっしゃるようにひとつのテーマに絞って、それをわかりやすく作っていくこともできる。「互助」という言葉も今回の概要版で説明するか、後でこういう考え方がありますというふうに広報で説明することもできる。

持安委員： それでもいいと思う。

町民生活課長： 基本指針の中にそのことはうたわれていなく、概要版を見てもらってから基本指針を見てもらうという流れもあるので、概要版と基本指針の内容が違ってしまっても困る。今言ったように、この後の展開として互助という言葉も使われているということをごどこかで説明するといいいのではないかと。

持安委員： 最初に私がいったことはどうだろうか。

吉岡主幹： ボランティアと協働は性質が違うので、しっかり馴染むということでもない。

久我委員： 「ボランティア活動のことをいうみたいね。」となっているので、いいのではないかな。

もう少し突き詰めたいのならば、基本指針を見ていただくことになると思う。一般の町民の方に見てもらえば、これで十分だと思う。

吉岡主幹： もしくは「ボランティア活動みたいなことをいう」にするといいと思う。

持安委員： ここでどうしても言いたい事は、私の最終的な協働のまちづくりのイメージは互助で、それはボランティアではないと思う。これから物語や第2弾に進んでいくのならば、共通の認識を持たなければいけないという思いもある。「協働のまちづくりってなに？」というところで一番言わなければいけないことは、同じ目的のために協力して働くことだと思っている。それぞれ持っている力を出し合っということが、現れなければならないと思う。これを読むとボランティアをしたり、道路沿いに花を植えたりということをすればいいと思ってしまう。

瀬川委員： それではだめなのだろうか。

平倉委員： わかりやすく皆さんに伝えるために、どうしたらいいかということで話し合ったと思う。

瀬川委員： 協働イコールボランティアではないということはわかるが、感覚的にまったく違うものでもないと思う。同じ意思を持ってボランティアをやっているし、そこに行政が手伝うこともある。ボランティアを協働から分けてしまうことが必要なのだろうか。ボランティアという言葉は皆さんイメージしやすい言葉のひとつなので、掴みやすくなると思う。

持安委員： 皆さんの意見もよくわかるが、ボランティアは特別な人という感覚を持っている人もいると思う。ここで言っていることは、みんながお互いにできることをやるということだと思う。

久我委員： ボランティアをすることで、協働につながるということもあるのではないかな。

吉岡主幹： 過去の叩き台では、ボランティア活動という表現は入れていない。わかりやすい表現にするために、ボランティア活動という例えにした。確かにボランティアと協働がイコールではないことはわかる。

持安委員： 委員会として、本来は違うがわかりやすくするためにこの言葉を使ったということが話し合われているのならば、それでもいいと思っている。住民の方がボランティア活動をしたらいいんだと思ってしまうことは間違いだと思うので、最終的に協働のまちづくりがどういうイメージなのかを置いていなければならないと思う。

中澤委員： 少子高齢化になっていくことは現実であるが、そのことだけのために協働のまちづくりをするわけではなく、生活全般にかかわることで困っていることをみんなで力をあわせることが協働になると思う。

三島会長： その中にボランティアが入ってこないわけにはいかないのではないかな。

瀬川委員： ボランティアも協働の中のひとつだということはどうなのだろうか。それもまた違うと感じているのだろうか。

持安委員： ボランティアは共助だと思っていて、間違いかもしれないが、ボランティアをしている人は特別な人と感じる人もいると思う。

吉岡主幹： ボランティアを省いてもいいが、それをすると説明が難しくなるかもしれないという思いもあって、前の会議のときなどでも徹底的に難しい言葉をやめようということで、ボランティア活動という言葉に置き換えた。協働の中の一部にボランティアがあるという表現になるといいと思うが、今のままだとボランティアと協働がイコールというふうにとられかねない

ので、少し表現を変えて説明したいと思う。

平倉委員： 各町内に女性団体のボランティア団体に入っている方がいるので、この文章を見たときに、各女性団体に入っている方がやっていることが協働で、これでいいんだ、今までどおりのことをやればいい、というふうに受け止めて理解してもらえないかと思った。

持安委員： そういう考え方もあるのかと思った。1ページを見たときに花を植えて、公園管理をボランティアの人がやればいい、というふうに少し感じたのでそういうふうにした。

吉岡主幹： 元々は町民同士や、町民と行政が協力して地域の問題を解決し、よりよいまちづくりを進めていくことが協働のまちづくりというふうにしてあったが、わかりにくかったり難しかったりしたので今のようにした。

持安委員： ここで実際にやっている花を植えることや見守り隊はイメージが湧くと思うが、それだけでいいのかとなりそうな気がした。

久我委員： これ以上は基本指針を見ていただき、自分たちも勉強するという段階としては、この言葉でいいのではないか。

持安委員： 確かにそれでいいと思う。しかし、同じ目的のために協力するという言葉はどこかに入らないだろうか。これから先がまだあるので、まずは浅く広くわかってもらって付け加えなくてもいいという意見もあるのだろうか。

久我委員： 付け加えなくてもいいのではないだろうか。次に作るものを考えるのならば、持安委員のいうように完全にイコールではないということを広報のどこかのコーナーで打ち出していけばいいと思う。

持安委員： 前回の委員会に出席できなかったので、そのことを確認したかった。

吉岡主幹： 1ページのお母さんの「ボランティアのことをいう」という表現では、協働の範囲が狭くなってしまうため、ボランティアも協働の一部だという意味に変えたいと思う。

三島会長： 簡単で始めて読んだ人にもわかるようにする、ということを目標に作ってきた。

吉岡主幹： 小学校5年生でもわかるものという意見があり、それもひとつの目標にしている。

持安委員： 今回のもので漠然と関心を持っていただき、そして次にもっと具体的なものを作って、関心を持っていただいた人に具体的に知ってもらえればいいと思う。

吉岡主幹： 新年度の誌面を1年分取ることもできるので、来年度もそうするといいだろうか。今年度は1年間、25日号で特集をしている。

町民生活課長： 広報ではボランティアを通して協働を説明している。来年度に向けてはもう少し違った展開にすることもできると思う。

松下副会長： 今までは何もない中で、行政主導という表現できているが、今回基本指針ができたので、それに沿った形で町民に説明していくことがいいのではないかとということで、前回の会議でも話したと思う。

吉岡主幹： できれば、新年度から行政主導ではなく、委員主導で誌面を作ればさらにいいと思う。

久我委員： 概要版は、カラーで配られるのか。

吉岡主幹： 役場の印刷機で印刷するので、カラーで配る予定である。

広報に載せる際に、こういう記事を載せたらいいという意見があればもらいたいと思う。できるだけ委員会の意見を反映して、記事を作っていきたい。

持安委員： 例えば、協働のまちづくりのイメージはどんなものだろうか。このイメージを統一したほうがいいと思った。私のイメージは、さまざまな課題を掘り起こし、町民は何をするか、行政は何をするのか、という話になってくると思う。一人ひとりが課題を考え、二人、三人が

寄ってなんとかしようというのが互助だと思う。そして、その考えを役場はどのように反映するのかという、仕組みを作らなければならない。それを次回から委員会の意見として言えるように、同じ認識を持たなければならないと思っている。

久我委員： 例をあげるのなら、各住民会で行われている見守り隊を作ったきっかけや名前の由来やどんな子ども達や高齢者がいて始まったのか、ということ深く調べたらいいのではないか。東明住民会など活動が活発なところもあるので、聞くこともできると思う。

持安委員： 第2弾は、そういう方向で作るのだろうか。

瀬川委員： 今の話は、これから記事を作っていく上でのひとつの例だと思う。持安さんがおっしゃった協働のまちづくりのイメージは、一つひとつの個々の細かなことをあげていくことじゃないと思う。例えば、見守り隊をやるという人がどんどん出てくる状態が、協働のまちづくりの究極の形だと思っているが、皆さんはどう思っているのだろうか。持安委員はその最終的な形を委員会としてみんなで一緒にして、次に進まないといけないのではないかと考えている。

持安委員： 私が焦っているのは、1月25日、26日、31日と我々の意見が続けて出て行く。概要版は、いろいろな質問が来ると思う。第1弾は皆さんがわかりやすいように簡単にしたものを出して、次にはこのような方向性で進んでいくと委員会で決まっていて、そのためにはどうするというような説明をすると思うので、今日はある程度その話をしておかなければ説明が難しいと思う。やはり何が課題なのかを掘り起こせるようなシステムや課題を解決する仕組みづくりをこの委員会の中で話し合わなければならないと思う。

久我委員： そこまで突き詰めて考えていかなければならないだろうか。概要版がでて、これを見た町民の中からいろいろな質問が出てから考えるのでは遅いのだろうか。持安委員の言っていることは分かるが、今それを考えることは難しいと思う。

瀬川委員： 概要版は、基本指針を見てもらうために作ったと思っている。基本指針には、今言っていたようなことがしっかり書かれているので、基本指針を見てもらうための概要版だというふうにするためには、これくらいの簡単さがいいと思う。これの次にやることはもうすでにできていて、基本指針を皆に見てもらうことだと思う。指針を見たらええ、先ほどの話のようにボランティアと協働が全く同じではないということも書いてあり、突き詰めた具体例も書いてあるので、そこに導くための一枚という観点で出すほうがいいと思う。そして先ほど言っていた究極の目標は、基本指針に書いてあると思う。

持安委員： そこまでのくくりは押さえているが、基本指針をわかってもらって、その上でどのような行動をしたらいいのかと思う。

久我委員： それは今、考えなければならないのだろうか。

瀬川委員： それは、今後やっていけばいいことなのではないだろうか。まずは浅くてもいいので広めていくのがいいのではないか。

持安委員： わからない人は、基本指針を見てほしいということで概要版を出し、協働がどうだということはこれからだということだろうか。

瀬川委員： そうだと思う。

町民生活課長： 来年度は、具体的に協働してどのようなことができるのかということで、課題を出してもらい、行政やそれぞれの団体でどのように解決していくかという方向に持っていかねばならないと思う。

持安委員： 4月以降は課題の抽出から始まっていくということがわかった。

吉岡主幹： 広報の記事も課題の抽出の中でいろいろな話があれば、そのまま記事にしてもいい

と思う。

持安委員： 今回のスケジュールを見たときに焦ってしまった。間違いなく住民会長などにも聞かれると思うので、方向性を聞いておきたかった。

吉岡主幹： 奥田委員はしばらく会議に来られていなかったの、これを見てどう思うか伺ってみたい、どうだろうか。

奥田委員： 非常にわかりやすいと思う。会議録や以前の叩き台と比較しながら見ていたが、今回のではわかりやすいと思う。ただ、最初に島瀬委員が言っていた十勝岳の部分は引っかかっていたが先ほどの修正でいいと思う。

松下副会長： 小学生でもわかってもらえるような文章になっているとは思っている。

三島会長： それでは、概要版については先ほどの何箇所かの訂正だけでいいだろうか。

島瀬委員： 具体的にするとまたページ数が増えて読んでもらえないものになってしまうのでこれでいいと思う。

吉岡主幹： 4月以降広報の中で補っていくということでもいいだろうか。（承認）

平倉委員： 役場に協働についていろいろな質問をしてくれればいいと思う。

島瀬委員： 意見が出てくればいろいろな方向性も出てくると思う。

三島会長： それでは、概要版はこれで完成にしたいと思う。

## 2 今後のスケジュールについて

吉岡主幹： 次の会議で施策の検討とあるが、例えば今年度協働としてやってきたことに、公園管理があるのでどんなことをやってきたのか検証したいと思う。今後は広報などで具体的なものを示していくということも含めて意見をいただきたい。例えば4月から誌面を使うということであれば、約2週間前が広報の締め切りなので次回の会議で意見をいただき、事務局で記事を書いてみてから皆さんに見ていただいて、電話やファックスで修正していただき記事にしていきたいと思う。今年度は行政が作成してきたので、そうではなく委員さん主導に少しでもすることができれば、これも協働のまちづくりだと思ふ。また、協働事業で実施することで、もっと効率的にできるものがあればと思うので、協働事業の掘り起こしができればいいと思う。

島瀬委員： 住民会長懇談会や課長会議にこれを提案して、いろいろな意見が出てきてそれを集約したものを反映するというものもあるのだろうか。

町民生活課長： 提案ではなく報告ということで意見を聞き、施策としてこれを基にしてどういうことをやったらいいのですかということとは聞くが、中身を変えるということはない。すでにパブリック・コメントで意見をいただく期間を設けていたので、でき上がったものに意見が出ることはない。

松下副会長： 確認したいのだが、設置要綱の所掌事項の第2項の中で、協働として実施すべき事業かの検証とあるが、具体的にはどういったことをするのだろうか。

吉岡主幹： それが掘り起こしのことであり、いくつかの事務事業を説明し、協働でやったほうがいいか協働には馴染まないかを掘り起こしていきたい。

町民生活課長： ただ、補助や助成の事業となるとものすごい数になるので、一つひとつ見ていってもどうかと思うが、それも一つの方法である。本来は職員の方でそういった事業を振り分けて職員の行動指針の中ですべきかもしれない。もう一つ気になっているのが、今自主防災組織のことが言われているが、普段から隣にどのような人がいるか町内会などで情報を持ってやるべきだと思う。昨年、公営住宅での孤独死や高齢者の方が一人で外に行ってしまい亡くなったということもあり、今後、さら増えていくことも想定されるので、そういうことをなくす

ために少しずつやっていくことも協働のまちづくりの一步だと思う。来年度は、そういう組織を作るにはどうしたらいいかを相談しながら進めていければいいと思う。

松下副会長： 住民会としてもそこが宿題となっている。町内会の役員も毎年変わるので、連携が取れないということもある。

久我委員： 東明住民会のふれあいサロンに参加させていただいたが、皆が一つの行事を応援しているという感じがすばらしいと感じた。2年で福祉推進員が終わるということではなく、次の人に代わっても前にやっていた人はボランティアとして次の年も応援していた。そして、各家庭で作ってきたものを集めてオードブル形式に並べてお年寄りを楽しませたり、体操したり、頭の体操をしたりと、人はそのために一生懸命勉強しながら後の人を引っ張ったりしている。そういうところがすばらしいと感じた。

吉岡主幹： 東明住民会は年間310日くらい会館を使っており、そのうち150回が老人会で老人会にも7つの部活動があり、それぞれ使っている。しかし、外しか使わないパークゴルフなどもあるので、5～6の部活で年間30回ずつくらい使っている。一週間のうち6日使っているのですごいと思う。

三島会長： 東明会館は専用に使えるのでそれだけ使えるのだと思う。他の住民会では使用する場所の予定が半年前から埋まっているということもある。

吉岡主幹： それもあると思う。そういうところは自分たちの物品を置けないということもあつたりするので、専用の拠点があることは大きいと思う。

三島会長： 本町は会館を作らなかったのも物を置く場所がない。

吉岡主幹： 本町の会館の建設費が予算化されたが、当時、本町住民会は、日東会館があり、セントラルプラザもできるので会館の建設を辞退した。それで急遽、以前から要望のあった宮町に会館を作ることになった。

持安委員： これからは課長に言っていただいたような町で起こった孤独死と徘徊などの身近にあった課題についてどのように対応していくかがあり、そこには協働ということがあるのではないかということや久我委員のおっしゃった一人暮らし高齢者を地域で見守りながらその人らしく暮らしていくためには地域として何ができるのか、ということの一つの手段としてふれあいサロンというものもあるのではないかという話だったと思う。少し気になったのは事業毎に事業仕分けみたいなことをするというわけなのだろうか。

吉岡主幹： そういったものではない。ただ、掘り起こしだけはやってほしいと思っている。協働でやる事業を増やしていきたい。

三島会長： 日の出公園を協働でやることはできないだろうか。昔はいろいろな団体に花を植えたりしていたがどうなったのだろうか。

町民生活課長： 町がそこにお金をかけられなくなったということだと思う。

三島会長： 次回会議は2月22日（火）に開催したいと思う。

閉 会 [ 会議終了：20時20分 ]

上富良野町協働のまちづくり推進委員会 委員名簿

任期：平成22年6月29日から平成24年3月31日まで

11

	所属団体・機関の名称	氏 名	備 考	1月11日
1	住民会長連合会	上 村 勉		
2	住民会長連合会	松 下 力		
3	社会福祉協議会	持 安 弘 行		
4	NPO法人たんぼぼの会	三 島 功 士		
5	ふらの農業協同組合上富良野支所	瀬 川 英 樹		
6	商工会	境 一 義		60分遅刻
7	生活安全推進協議会	島 瀬 良 一		
8	女性連絡協議会	中 澤 正 子		
9	リフレッシュ・マイタウン・かみふらの	奥 田 哲 也		
10	公募	大 内 和 行		
11	公募	徳 武 良 弘		
12	公募	久 我 みち子		
13	公募	平 倉 範 子		

10